

思い出の制服から始める、衣服廃棄ゼロへの産学商バトン

～ウール・ポリエステル混紡マテリアルリサイクルによる生活者啓発の実証～

申請枠：東京都サーキュラーエコノミー社会実装化事業

申請者：日本毛織株式会社（ニッケ）

連携事業者：CCC（代官山 蔦屋書店）／abode／慶應義塾大学 蟹江研究会

！ 事業の背景・解決すべき課題

●混紡素材のリサイクル難

✔衣料品の約7割が複合素材で出来ており、水平リサイクルの障壁となっている。

✔学校制服に多く用いられる「ウール・ポリエステル混紡素材」は、長期着用に適しているが水平リサイクルの観点では、分別・再資源化が極めて困難である。

●家庭内での死蔵とごみ化

「思い出の品」であるため、卒業後も家庭内に長年死蔵され、最終的に大半が「家庭ごみ（可燃ごみ）」として焼却処分されている。店頭での衣料回収においても制服は対象外になっているところが多い。

▶▶▶解決のアプローチ

独自開発した「混紡素材の反毛（水平リサイクル）技術」の規模拡大を狙い、制服を単なる廃棄物でなく、『教育資材』として再定義。生活者が愛着を持ったまま未来へ手放す「行動変容」を促す。

産学商・カルチャーが融合した強力な実施体制

NIKKE

【統括・メーカー】日本毛織株式会社
全体管理、制服の反毛処理・高品質「再生フェルトボード」の精製技術提供

Keio University

【学・コミュニティ】慶應義塾大学 蟹江研究会ファッション班
大学生主体のSNS発信、地域と連携した「教育資材」回収イベントの企画・現場運営

abode

【デザイン実装】株式会社アボード
再生フェルトを用いたプロダクトデザイン監修

CCC
Culture Convenience Club Co., Ltd.

【商・発信拠点】代官山 蔦屋書店
商業プラットフォームの提供、プロモーション、グッズ販売運営



【文化的付加価値】新鋭クリエイター6名
アート意匠提供

🏠 補助事業の取組内容：令和8年9月～の社会実装

採択・交付決定を受け（8月下旬）、CCC主催の大規模イベント「代官山爽涼祭（9/18～27）」にて、以下の3施策を完全連動して実施する。

【循環のストーリーライン】



施策 1 大学生主体による制服（教育資材）回収イベント
「資源として未来へ繋ぐ」意義を大学生が直接対話やSNSで発信し、多世代から制服を能動的に回収

施策 2 クリエイターコラボグッズの製作・販売
再生フェルトを原材料とした「ガーランド」を店内特設スペースで展示販売し、サステナブルを文化へ昇華

施策 3 体験型「縁日ブース」の展開
廃棄生地うちわ作り等の多世代向けワークショップ。廃棄羊毛肥料「ラナリン」や海洋生分解実験のミニ展示により技術と思想を可視化

📈 期待される効果 & スケジュール

期待される効果

✓ プラスチック（ポリエステル）廃棄削減

石油由来プラスチックであるポリエステル混紡素材を直接的にマテリアルリサイクル（水平リサイクル）し、家庭ごみの焼却を未然に回避する。

✓ 意識・行動変容

「アート」や「あそび」の力で、生活者が自発的に資源回収へ協力する持続的な行動変容モデルを確立する。

✓ 先進ショーケース化

2027年以降の商業施設への定期的な衣服回収ボックス設置、定番流通ライン化を見据えた、東京都におけるサーキュラーエコノミーの先導モデルとなる。

📅 公式実施スケジュール （R8/9月～R9/2月）

時期	実施内容	目的・効果
7～8月 （採択前）	【交付申請・準備】 デザインFix、事前回収告知開始（自主財源）	企画具体化と役割分担の明確化を行い事業の実効性を高める
9月 （補助期間）	【交付決定】 本生産・「代官山爽涼祭」にて回収・展示販売実施	アップサイクル品の量産や展示企画の具体化により、出展効果を最大化する
10～12月	反毛処理・再資源化、データ共同分析、次年度仕様策定	回収品は再資源化スキームに乗せて廃棄削減につなげ、来場者のデータ集計分析とレポート化
R9/1～2月	成果報告書作成、経費執行証憑の整理、2月上旬に公社へ完了報告	連携事業者と振り返りを行い、社会実装化を検証